第３学年　社会科学習指導案

３年４組　男子 22 名　女子 18 名　計 40 名
指　導　者　　桶谷　悠祐
【授　業】13：30～14：20　会場　３年４組　（４階）
【協議会】14：30～15：20　会場　マルチ教室（３階）

１　単元名　　現代の民主政治－選挙制度から考える民主政治の在り方－

２　単元について

（１）単元設定の趣旨

①学習指導要領における位置付け

本単元は、平成 29 年告示の中学校学習指導要領の公民的分野の大項目Ｃ「私たちと政治」中項目（２）「民主政治と政治参加」に位置付けられる。そして、「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割」や「議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること」及び「民主政治の推進と、公正な世論形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること」を目標としている。学習指導要領上「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項では、各内容において、多くが「多面的・多角的に考察し、表現すること」としている。一方、「多面的・多角的に考察、構想し、表現すること」など、積極的に「構想」まで求めている部分は、中学校社会科では地理的分野及び歴史的分野における学習最後のまとめ部分である最終項目一箇所のみである。しかし、公民的分野においては、経済学習、政治学習、国際関係の学習の内容のそれぞれに「構想」の記載がある。土肥(2024)は、「(社会科における）構想とは、課題に対し自分はどう捉えるのか、関わるのか、働きかけるのか問い、考察で分かった知識を活用し働かせて、意見や考えをまとめること」としている。(棚橋健治・木村健一編著『社会科重要用語事典』より引用）このことから、特に公民的分野の政治学習では、社会問題に対して現状を分析するだけでなく、解決策やよりよい社会の在り方を考え、自らの意見を構築、提案することで公民としての資質・能力を育成していく必要があると考えた。

②社会の要請から

戦後日本では、人口変動に伴う議員定数の増減や選挙区割りの改定、1994 年に施行された現行の小選挙区比例代表並立制の導入等､衆参両議院ともに選挙制度の変更が何度も行われてきた｡また、2025 年 10 月に自民党と日本維新の会が結んだ連立政権合意書に「１割を目標に衆議院の議員定数を削減する」と明記したことで､選挙制度の改革が高市政権の重要課題の１つとなった｡国会では、与党は削減対象を「比例代表選挙のみ 45 議席」とする方針であるが、野党はそれに対し反発している。２月の衆院選を基にした読売新聞の試算では､比例代表選挙で 45 議席を削減した場合の減少率は、共産党 50%、参政党 43%、国民民主党 39%など、中小政党への打撃が大きく､「少数意見をくみ取る機能が弱くなる」との批判のほか、野党内には「議員が減れば複数の委員会を掛け持ちするケースがさらに増え、国会の議論の質が低下しかねない」などの主張もある。選挙制度とは、選挙の仕組みと投票方式を定める制度であり、その内容次第で政党の有利不利、候補者の当落選が左右されるものである。つまり、選挙制度の在り方によっては、私たちの民意が歪曲して政治に反映される危険性を秘めている。特に民意の反映と政権の安定は完全に両立することはできない。多様な民意を反映しようとすればするほど、多党制となり政局が不安定になりやすい。このように選挙制度についての改革は、その都度、問題が生じており、民主主義を維持・実現していくための主権者として考えるべき重要な政治課題だと捉える必要がある。昨今、社会で大きく取り上げられている議員定数削減問題を導入として選挙制度改革に伴う諸課題を取り扱うことで、生徒自身が主権者として価値判断・意思決定する機会になるとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成できると考えた。

（２）生徒の実態

生徒はこれまで、公民的分野において、様々な討論活動を行った。現代社会の見方や考え方の単元では「富山市の部活動は地域移行すべきかどうか」という学習課題を設定し、「効率・公正」の観点を踏まえて、自らの考えを主張する討論活動を行った。また、人間の尊重と日本国憲法の基本的原則の単元では「大学入試における女子枠導入に賛成か反対か」という学習課題で、討論活動を経て、形式的平等と実質的平等について考えを深めた。どちらも「すべきか、すべきでないか」「賛成か、反対か」という二項対立の基で討論活動を行ったが、最終的にどちらがよいかの価値判断にとどまっていた。現状を分析し、よりよい社会をめざして新たな解決策を見いだし、意思決定を行うまでに到らなかったという点が課題として挙げられる。

そこで本時では、選挙制度改革に伴う諸課題を取り扱い、日本における最も理想的な選挙制度について構想する。生徒はこれまで衆議院と参議院の定数、任期、選挙制度の違いを学習し、「議員定数削減は必要か」という問いに対しては、「日本の人口が減っているのだから、議員定数削減すべき」という意見が大半であった。そこで、「なぜ衆議院における比例代表の定数削減なのか」と問うと、途端に多くの生徒が回答に窮した。衆参両議院の選挙制度の共通点や相違点、そのメリット・デメリットを分析し、最も理想的な選挙制度を構想し、意思決定を行うことで、民主政治の発展に寄与する公民としての意識を高められると考えた。

（３）指導の構え

本校の研究主題である「主体性の高まりをめざす課題学習」と関連し、生徒が進んで追究したくなるような学習課題を設定した。本単元では、単元を貫く課題として、「選挙制度は、どうあるべきだろうか。」を設定した。衆参両議院の選挙制度の違いを知識としての習得にとどまらせるのではなく、最終的に生徒自身に最も理想的な選挙制度を構想するという課題を解決する単元構成とした。一言に「理想的」といっても、その理想的な状態とは、「一票の価値が平等であることを実現している状態」や「民意が反映されている状態」、「地域間の公正さが保たれている状態」等、多岐に渡る。生徒自身が優先順位をつけ、価値判断を行い、理想の選挙制度を構想させる。

また理想的な選挙制度を構想させる上で、日本の選挙制度を理解させることは必要不可欠である。しかし、日本の選挙制度は、衆参両議院ともに選挙区制と比例代表制の混合型であるが、選挙区割りや比例代表の重複立候補の有無、拘束名簿式であるかどうかなど、その相違点は多岐に渡り、諸外国の選挙制度と比較しても日本の選挙制度は複雑である。学習方略を活用した支援（３　研究主題・副題との関連参照）を行い、理解を促したい。また、これらの活動を通して、現代社会に見られる諸課題を理解するとともに、それに対して公民として合理的判断を行い、ふさわしい行動をとる力を育む社会科の本質につなげたい。

３　研究主題・副題との関連

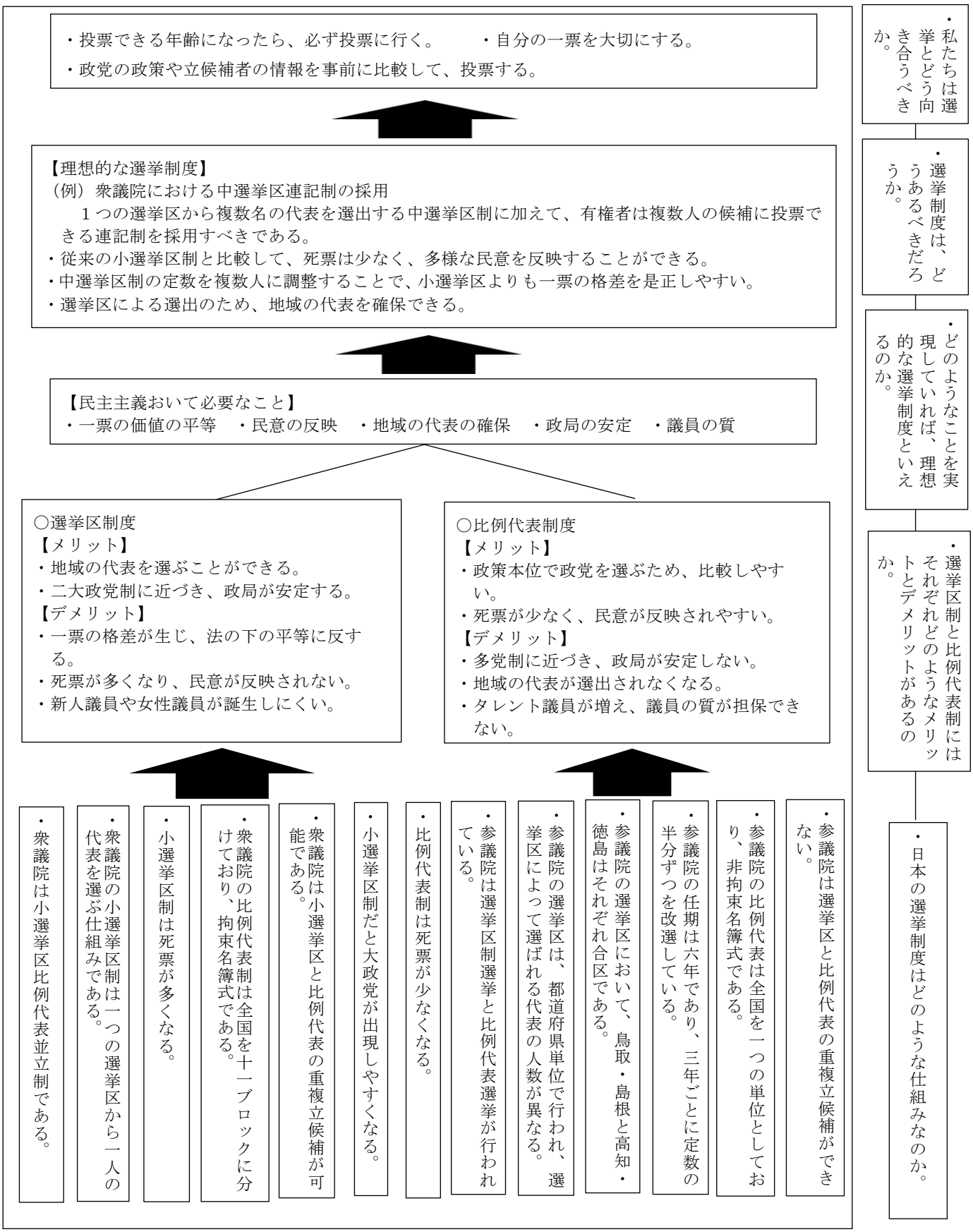
【仮説】

生徒が、国会や二院制の仕組みや役割、衆参両議院の選挙制度の共通点・相違点やメリット・デメリットを理解し、課題に対する解決策を、既習事項と組み合わせて構想しようとする姿を、本単元でめざす「自立した学習者」と捉える。「自立した学習者」に近付くための手立てとして、学習方略を活用させる。選挙区制度と比例代表制度、メリットとデメリットの評価軸を用いた四象限マトリクスを提示し、学習方略のうち、認知的方略の１つである体制化方略によって情報の整理を促す。また、理想の選挙制度を構想する際に、メタ認知的方略の１つであるプランニングを駆使することで、自らの仮説を検証するために必要な問いを立てたり、課題追究のための計画を立てたりする。その課題追究の過程で、似た（もしくは異なる）仮説をもつ生徒同士で意見交換を行ったり、生徒自身で新たな課題を発見・解決したりしていくことで、学びのイニシアティブが教師から生徒へと徐々に移行していき、「学びの往来」が生じる。この学習方略を適宜活用していくことで、効果的に「自立した学習者」を育成できると考えた。

4　本単元における「深い学び」の構造図

本単元で「深い学び」が実現している状態を、次の図に示した。

「社会的見方・考え方の成長過程図（知識の構造図）」⇔「発問の構造図」



５　単元の目標

○　国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解することができる。　【知識及び技能】

○　日本の選挙制度の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】

○　民主政治における必要な視点を用いて、選挙制度改革問題について、主体的に追究・解決しようとしている。　【学びに向かう力、人間性等】

※必要な視点とは、「一票の価値の平等」、「民意の反映」、「地域間の公正さ」等である。

６　全体計画（全３時間）

第１次　日本の選挙制度はどのような仕組みなのか・・・・・・・１時間

第２次　最も理想的な選挙制度は、どうあるべきか・・・・・・・２時間（本時１／２）

過程	教師による発問・指示 （学習課題）	期待される生徒の反応や活動 （獲得される知識・概念）
【1次】 日本の選挙制度はどのような仕組みなのだろうか	1. あなたが考える最も理想的な選挙制度はどうあるべきだろうか（プリテスト）	
	2. なぜ衆議院の比例代表の議員定数を削減しようとしているのだろうか。	・ 日本の人口が減ってきているから。
	3. 議員定数削減の方法は他にありませんか。	・ 参議院の議員定数を削減する方法がある。 ・ 富山１区など選挙区で選ばれている議員もいる。選挙区を減らす方法もある。
	4. まず衆議院と参議院にはどのような違いがありますか。	・ 人数や任期、被選挙権が異なる。 ・ 衆議院の優越がある。
	5. 日本の選挙制度はどのような仕組みなのか。	・ 衆議院は小選挙区比例代表並立制がある。 ・ 参議院は選挙区制と比例代表制がある。
	6. 衆議院と参議院の選挙区制にはどのような違いがありますか。	・ 衆議院の小選挙区制は一つの選挙区から１人の代表を選ぶ。 ・ 参議院は都道府県単位で行われ、選挙区によって選ばれる代表の人数が異なる。 ・ 参議院の任期は６年であり、３年ごとに定数の半分ずつを改選している。
	7. 衆議院と参議院の比例代表にはどのような違いがありますか。	・ 衆議院の比例代表は全国を 11 ブロックに分けている。 ・ 拘束名簿式であり、政党名を選ぶ。 ・ 衆議院は小選挙区と比例代表の重複立候補ができる。 ・ 参議院の比例代表は全国を一つの単位としている。 ・ 非拘束名簿式であり、政党名もしくは個人名を選ぶ。 ・ 選挙区同様、３年ごとに半数改選である。 ・ 参議院は選挙区と比例代表の重複立候補ができない。
	8. 日本の選挙制度は変更されたことはなかったのでしょうか。	・ 昔は納税額によって選挙権が制限されていた。 ・ 衆議院・参議院ともに議員定数の増減がなされてきた。 ・ 1994 年に衆議院では中選挙区制から、現行の小選挙区比例代表並立制に変更された。
	9. 現行の選挙制度は理想的といえるのでしょうか。	・ 普通選挙が実現されており、理想的といえる。 ・ 中選挙区制に比べて派閥政治の弊害が解消されており、理想的といえる。 ・ 中選挙区制に比べて、選挙制度が複雑になっているから理想的といえない。
	10. 理想的な選挙制度について考えるために、現行の選挙区制と比例代表制のメリット・デメリットについて考えてみましょう。	

【第2次】選挙制度は、どうあるべきだろうか	本時は7（2）を参照	
	11. 自分が立てた計画に従って、仮説を検証してみましょう。 12. 選挙制度は、どうあるべきだろうか。（ポストテスト） 13. 私たちは選挙とどう向き合うべきか。	・ 衆議院比例代表制の重複立候補を廃止すべきだ。 →重複立候補制を導入していた国はあったが、いずれの国も廃止している。 など ・ 自分の一票を大切にする。 ・ 政党の政策や立候補者の情報を事前に比較して、投票する。

7 本時の学習（全２／３時間）

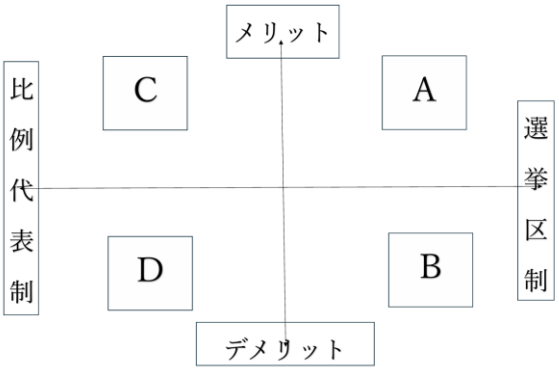
（1）指導目標

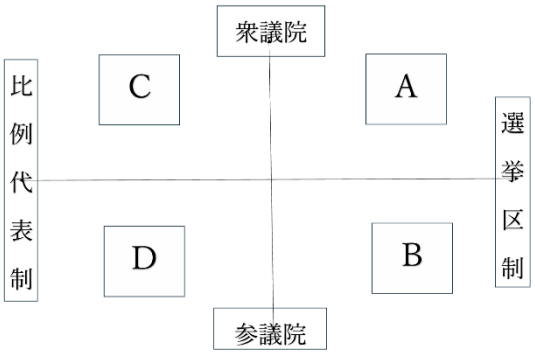
・選挙制度改革に伴う諸課題を、多面的・多角的に考察し、日本の選挙制度の在り方について、自分の考えを構想し、表現することができるようにする。 【思考・判断・表現】

・選挙制度改革に伴う諸課題について、自らの仮説の検証に必要な計画や問いを立てて課題を追究・解決しようとする態度を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】

（2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
1 既習事項を確認する。 ・衆議院は小選挙区比例代表並立制 ・参議院は選挙区＋比例代表制 ・衆議院の比例代表は拘束名簿式（政党のみを記入）で小選挙区との重複立候補可能。 ・参議院の比例代表は非拘束名簿式（政党もしくは個人名を記入）で小選挙区との重複立候補不可。	・これまでの学習で使用したプリントを事前に配布しておき、これまでの授業内容を想起させる。 ・衆議院の比例代表が全国 11 ブロックに対し、参議院が全国 1 ブロックであることや参議院選挙は３年ごとに半数改選で、選挙区ごとに選出する人数が異なることにふれておく。
2 学習課題を確認する。 選挙制度は、どうあるべきだろうか。	
3 資料から読み取ったことを四象限マトリクスに位置付けて発表する。 選挙区制・メリット ・大政党が有利であるため二大政党制に近づき、政局が安定しやすい。（特に衆） ・地域の代表を選ぶことができる。（衆・参） ・個人を選ぶことができるため、責任の所在が明らかである。（衆・参） 選挙区制・デメリット ・一票の格差が生じ、法の下の平等に反する。（衆・参）	・根拠に基付いて発表させる。【精緻化方略】 ・事前にワークシートで四象限マトリクスに位置付けさせておく。【体制化方略】

・死票が多くなり、民意が反映されにくい。（特に衆） ・世襲議員が増え、新人議員や女性議員が誕生しにくい。（特に衆） 比例代表・メリット ・政策本位で政党を選ぶことができるため、比較しやすい。（衆・参） ・死票が少なく、民意を反映しやすい。（衆・参） ・女性議員が誕生しやすい。（衆・参） ・各党の名簿に従って、各党の信頼のおける人物が当選する。（特に衆） 比例代表・デメリット ・中小政党も当選しやすいため、多党制となり、政局が安定しにくい。（衆・参） ・立候補者個人を選ぶことができないため、責任の所在が曖昧。（衆） ・小選挙区で落選した立候補者が再度、当選できてしまう。（衆） ・タレント議員が増え、議員の質を保つのが難しい。（特に参） ・地域の代表が選出されなくなる。（衆・参） 4　最も「理想的」な選挙制度とは、どのようなことを実現している状態かを考える。 ・一票の価値が平等であること ・民意が反映されていること ・地域の代表が確保されていること ・政局が安定していること　など 5　4のうち、自分が優先すべき項目を順序づける。 ・政局の安定→民意の反映→地域の代表の確保→一票の価値の平等 ・民意の反映→一票の格差の平等→民意の反映→地域の代表の確保　など 6　4のうち、選挙制度との相関関係を考える。 ・地域の代表を確保し、政局を安定させるためには選挙区制を重視すべきだ。 ・民意を反映し、一票の価値を平等に近づけるためには比例代表制を重視すべきだ。 7　6までを踏まえて、最も理想的な選挙制度について考え、仮説を立てる。 ・参議院の比例代表の人数を減らすべきだ。	 ・最も意見が少ないと考えられるAを最初として、B→C→Dの順番で発表させる。 ・選挙区、比例代表及びメリット、デメリットの視点をそれぞれ板書で位置づけることで、論点を整理した視覚的に分かりやすい板書になるよう、工夫する。 ・生徒が対極の象限に触れながら、発表した際、随時、板書に位置づけていく。 （四象限マトリクス上では、概ねAとD、BとCがそれぞれ対極的な位置関係になりやすい。） ・発表に乏しい場合に備えて、生徒がワークシートで、どのように書いているかを事前に把握し、意図的指名をできるようにしておく。 ・生徒がそれぞれ最優先に選んだ項目を挙手させて、実態を把握する。 ・挙手が多いと予想される「民意の反映」と「政局の安定」を取り上げ、両立できるかどうかを考えさせ、両立しえないことに気付かせる。

・衆議院の比例代表の重複立候補制度を廃止すべきだ。 ・衆議院の選挙制度を中選挙区制連記制にすべきだ。 8　立てた仮説を新たな四象限マトリクスに位置付け、仮説を検証するための問いを立てる。 ・1982 年以降、参議院の比例代表がほとんど減っていないのはなぜだろうか。 ・衆議院議員で重複立候補制度により復活当選した議員にはどのような実績があるのだろうか。 ・諸外国の選挙制度で連記制の国はないのだろうか。 9　振り返りのワークシートを記入し、次時に向けた見通しを立てる。 ・衆参両議院の国会議員定数の推移について調べる。 ・どのような経歴をもつ人が国会議員になっているか調べる。 ・諸外国の選挙制度について調べる。	 ・上記の四象限マトリクスに自らの仮説を位置付ける。【体制化方略】 ・仮説を検証するために計画や問いを立てる。【プランニング】 ・必要に応じて、自らの仮説と似た（異なる）人と意見交換をしてよいと指示する。

（３）本時における評価規準

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	新たな選挙制度を構想する際、 ①現行の選挙制度の問題点を把握し、 ②①の問題点を解消しうる ③選挙制度を構想している。	新たな選挙制度を構想するために、 ①仮説を立て、 ②①の検証に必要な計画や問いを立て、 ③探究活動の結果をまとめている。
A	①～③のすべてを満たしている。	①～③のすべてを満たしている。
B	①と②もしくは①と③を満たしている。	①と②もしくは①と③を満たしている。
C	①～③の１点のみ、またはいずれも満たしていない。	①～③の１点のみ、またはいずれも満たしていない。

＊　思考・判断・表現はポストテスト、主体的に学習に取り組む態度はワークシートで評価する。

7　授業観察の視点

学習者に「選挙制度について多面的・多角的に考察、構想、表現」させるための授業構成として、選挙制度について取り上げた学習課題、発問、提示資料などの手立ては有効であったか。
また、課題を追究するための四象限マトリクスを用いた体制化方略や、自ら計画や問いを立てようとするプランニングは学習方略として有効であったか。

〔主な参考文献〕

【方法論】

- 岡崎誠司『社会科の授業改善１　見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013 年
- 岡崎誠司『社会科の授業改善２　社会科授業４タイプから仮説吟味学習へ-「主体的・対話的で深い学び」の実現』風間書房、2018 年
- 米田豊『「主体的に学習に取り組む態度」を育てる社会科授業づくりと評価』明治図書出版、2021 年
- 棚橋健治・木村健一『社会科重要用語事典』明治図書出版、2022 年
- 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書出版、1978 年
- 森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版、2000 年

【内容論】

- 浅川博忠『小選挙区制は日本を滅ぼす』講談社、2014 年
- 朝日新聞社編『日本政治の超基本』朝日新聞出版、2025 年　p16-95
- 池上彰『池上彰のいつものニュースがすごくよくわかる本』KADOKAWA、2018 年　p104-111
- 内田恭司・久江雅彦編『小選挙区制は日本をどう変えたか』岩波書店、2024 年
- 加藤秀治郎『日本の選挙』中公新書、2003 年
- 上脇博之『ここまできた小選挙区の弊害』あけび書房、2018 年
- 上脇博之『国会議員定数削減と私たちの選択』新日本出版社、2011 年
- 上脇博之『自民・維新の「議員定数削減」の合意』日本機関紙出版センター、2025 年
- 久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方〔新版〕』有斐閣、2025 年　p127-158
- 阪上順夫『小選挙区制が日本をもっと悪くする』ごま書房、1994 年
- 砂原庸介・稗田健志・多湖淳『政治学の第一歩〔第３版〕』有斐閣、2025 年　p61-142
- 只野雅人『日本の選挙と憲法』岩波新書、2026 年
- 松林哲也『何が投票率を高めるのか』有斐閣、2023 年
- 宮川隆義『小選挙区比例代表並立制の魔術』政治広報センター、1996 年